

病院の 実力

～埼玉編 157

今回は関節リウマチを取り上げる。

関節で炎症が起き、放置すると軟骨や骨の変形が進む病気だ。免疫機能の異常で起きるとされるが、原因はわかっていない。手足をほじめ、全身の関節に腫れや痛みが生じるほか、発熱や倦怠感なども出る。患者は推計約82万人で、女性が4分の3を占める。発症のピークは60～70歳代だ。

治療の基本は、抗リウマチ薬の服用。早期に治療を始めれば関節の変形を抑えやす

関節リウマチ

病院の実力「関節リウマチ」
医療機関別2019年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	新規・再診患者 (人)	生物学的製剤な どを使用(人)	関節手術(件)	専門医(人)
埼玉				
埼玉医大	1390	172	42	16
自治医大さいたま医療セ	1184	180	0	2
埼玉協同	894	15	29	2
東大宮メディカルセ	646	55	0	1
関越	502	64	3	1
新座志木中央総合	493	102	24	4
さいたま赤十字	300	90	15	1
埼玉医大総合医療セ	208	162	2	0
草加市立	199	101	9	1
防衛医大	111	28	17	4
独協医大埼玉医療セ	1	0	0	2
群馬				
群馬大	332	182	0※	10※
日高	300	200	2	1
渋川中央	164	15	0	3
前橋赤十字	152	57	2	1
済生会前橋	151	7	2	2
千葉				
松戸市立総合医療セ	4411	358	32	5
亀田総合	2252	348	25	4
国保旭中央	1626	420	9	3
順天堂大浦安	1090	436	15	5
成田赤十字	1024	331	22	3
千葉大	700	240	51	12
東京歯科大市川総合	650	150	3	2
千葉労災	250	25	30	3
国保君津中央	249	80	8	1
慈恵医大柏	162	5	3	2
船橋市立医療セ	142	36	3	4
国際医療福祉大成田	0	0	0	3

「セ」はセンター。

※整形外科除く、#2020年3月開院

全国の調査結果は16日の「安心の設計面」に掲載しました。

い。生涯つき合う病気で、治療は長期に及ぶ。一覧表には、2019年の新規・再診患者数などを示した。

抗リウマチ薬だけで症状が治まらない場合は、より効果が強い「生物学的製剤」を使う。注射や点滴で投与する。

近年は、同等の効果が期待できる飲み薬の「JAK阻害薬」も選択肢になっている。関節の変形が進行し、生活

に支障が出る場合は、金属製の人工関節に置き換えたり、骨を切るなどして形を整えたりする「手術」が行われる。選択肢が多いだけに治療を検討する際は、経験豊富な日本リウマチ学会の専門医に相談したい。表には、各医療機関の「専門医」の人数も掲載

早期治療で変形防ぐ